

21世紀COE「京都大学化学連携研究教育拠点」研究集会 開催報告書

化学研究所 時任宣博, 小澤文幸, 笹森貴裕, 長洞記嘉

集会名：21世紀COE「京都大学化学連携研究教育拠点」

第三回有機元素化学セミナー

日程：2006年10月26日（木）10:00-18:00

場所：京都大学化学研究所共同研究棟 大セミナー室

総参加者概数：約100名

招待講演者（敬称略）：石井昭彦（埼玉大院理）、一戸雅聡（筑波大数理物質科学）、岡崎雅明（京大化研）、河内敦（広大院理）、久新莊一郎（群馬大院工）、新谷亮（京大院理）、辻康之（京大院工）、豊田耕三（東北大院理）、中沢浩（大阪市大院理）、松坂裕之（阪府大院理）、南方聖司（阪大院工）、村井利昭（岐阜大工）

講演内容：

近年、遷移金属元素や高周期典型元素の特性を活かした様々な機能性物質が合成され、有機金属化学、触媒的有機合成、高分子合成、材料科学の発展に大きく寄与している。これらの分野で活躍する国内の中堅・若手研究者を講師に招待し、最新の研究成果について議論・意見交換を行うとともに、参加する研究者間の交流を深めることを目的として本セミナーを開催した。

講演では、元素化学的な視点から、有機合成化学、高分子合成化学、有機金属錯体化学、材料化学など様々な分野の最新の研究成果が紹介された。具体的には、ロジウム、ヨウ素、セレン、リン等の元素の特徴を生かした有機合成反応の開発、ケイ素、硫黄、鉄などを含む新規機能性分子の合成、様々な原子価を持つ特異な有機金属錯体に関する研究などが報告された。

会場には、化学研究所はもとより工学研究科や化学系企業などからも多くの参加者が集い、活発に討論が行われ、本COE 事業の目的の一つである「部局および研究組織間の壁を越えた新規研究者ネットワークの構築」に大きく貢献することができたと考えている。また、休憩時間や懇親会においても活発に意見交換が行われた。本研究集会を通じて、当該研究分野における最新の研究成果について有意義な議論と意見交換が行なわれ、参加する研究者間の交流を深めることもできた。

21世紀COE「京都大学化学連携研究教育拠点」 第三回 有機元素化学セミナー プログラム

平成 18 年 10 月 26 日 (木)

10:00-10:10 開会挨拶 時任宣博

座長 畠山琢次 (京都大学化学研究所)

10:10-10:40 新谷亮 (京大院理) 3
「ロジウム触媒による 1-インダノン類の合成」

10:40-11:10 南方聖司 (阪大院工) 5
「ヨウ素を活用する新しいヘテロ環合成法」

座長 岡崎雅明 (京都大学化学研究所)

11:10-11:40 松坂裕之 (阪府大院理) 7
「アミドまたはイミド架橋低原子価貴金属クラスターの合成と反応性」

11:40-12:10 中沢浩 (大阪市大院理) 9
「遷移金属周りでの転位反応—ホスフェニウム錯体の場合—」

12:10-13:30 昼食

座長 長洞記嘉 (京都大学生存基盤科学研究ユニット)

13:30-14:00 一戸雅聡 (筑波大数理物質科学) 11
「ケイ素—ケイ素三重結合化合物の合成、構造、及び反応性」

14:00-14:30 岡崎雅明 (京大化研) 13
「四鉄—四炭素クラスターへの官能基導入法に関する研究—遷移金属クラスターを核とする機能発現を目指して—」

座長 村田理尚 (京都大学化学研究所)

14:30-15:00 石井昭彦 (埼玉大院理) 15
「カルコゲン—カルコゲン結合を有する化合物と白金(0)錯体の反応」

15:00-15:30 久新荘一郎 (群馬大院工) 17
「ヘキサ-*tert*-ブチルシクロテトラシランから誘導されるケイ素—ケイ素 π 単結合化学種およびシリルジアニオン」

15:30-15:50 休憩

座長 村田靖次郎（京都大学化学研究所）

15:50-16:20 村井利昭（岐阜大工） 19
「ビナフチル基を有するセレノリン酸誘導体：新しいキラル分子ツールの開発」

16:20-16:50 豊田耕三（東北大院理） 21
「バイオミメティックシステムを指向した、配列制御型低配位リン化合物オリゴマーの研究」

座長 椿一典（京都大学化学研究所）

16:50-17:20 河内敦（広大院理） 23
「 σ -(フルオロシリル)フェニルリチウムの開発と多座ルイス酸合成への応用」

17:20-17:50 辻康之（京大院工） 25
「特徴的な空間的広がりを有する分子触媒の創製とその機能」

17:50-18:00 閉会挨拶 小澤文幸

18:00-20:00 懇親会（宇治生協食堂にて）

（敬称略）